

讃美歌：Ⅱ編 167番 “Amazing Grace!”

聖書：新約聖書 テサロニケの信徒への手紙一 5章18節

「どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

「感謝という贈り物」

おはようございます。11月になるとアメリカでは”Thanksgiving (感謝祭)”と呼ばれる休日があります。その日、私たちは家族でごちそうを食べて生活のあらゆる良いことに感謝します。とても楽しいひと時で、感謝の思いを新たにします。でも私たちはふだんどれくらい感謝の気持ちを表しているのでしょうか？

もちろん、私たちは物事がうまく進んでいるときには感謝するかもしれませんが。ありがとうございます神様、テストがうまくいきました。お昼に美味しいアップルパイを食べました。すばらしいお天気をありがとうございます。しかし、良くないときはどうでしょう。雨の日にも神様に感謝できるのでしょうか。パウロというのはイエスの弟子で今日の聖書の箇所を書きましたが、彼は悪い状況の中でも神様に感謝していました。彼の身に何が起こったか聞いてください。

そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に投げ込み、看守に厳重に見張るように命じた。この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢に入れて、足には木の足枷をはめておいた。真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌を歌って神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。

(使徒言行録 16章23-25節)

ワオ！想像できますか？パウロは何も悪いことをしていませんでした。けれども高官たちは彼を犯罪者のように鞭で打ち、牢屋に閉じ込めたのです。その後パウロはどうしたのでしょうか。怒ったのではありません。絶望したのでもありません。文句さえ口にしませんでした。神様に向かって歌ったのです！「主われを愛す！」もしかしたら皆さんはこう思っていないですか。「マジか？パウロ、お前がいるのは牢屋だよ！」しかしパウロは知っていました。神様は良いことを行われるのです。いつでも何か感謝すべきことはあるのです。パウロは自分が生かされていること、友人のシラスがともにいることを、ありがたく思いました。彼は神様の愛が人々の憎しみよりも大きいことに感謝したのです。

私たちは困難な時や物事が思い通りにならない時に、選ぶことができます。腹を立てる。悲しみにくれる。不満に思う。あるいは感謝する。私たちは雨の日でも神様に感謝することができます。食べ物があること、校舎のおかげで雨にぬれずに過ごせることなど、いつも何か感謝することはあるものです。そして感謝の気持ちは喜びと希望につながり、人生の厳しい場面を乗り越える強さを与えてくれます。今度もし苦しい状況になったら、どうぞ何か感謝するものを見つけてください。お祈りします。

神さま、あなたが与えてくださる全ての良いものに感謝します。私たちの命、親、先生、生徒、校舎を与えてくださり、ありがとうございます。青森のリンゴ、太陽の光、そして雨にも感謝します。部活動や宿題ができること、友人がいることも感謝します。何よりも神様、あなたがいてくださり、ありがとうございます。どうぞ私たちがいつも感謝の気持ちを持てるようにお導きください。イエス様のお名前により祈ります。アーメン